

[第 4 学年の目標]

- (1) 除法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。また、小数及び分数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、小数及び分数についての加法及び減法や、**小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、適切に用いることができるようにする。**さらに、概数について理解し、目的に応じて用いることができるようにする。
- (2) 面積の意味について理解し、簡単な平面図形の面積を求めることができるようにするとともに、角の大きさの意味について理解できるようにする。
- (3) 図形を構成要素及び**それらの位置関係**に着目して考察し、**平行四辺形やひし形などの平面図形及び直方体などの立体図形**について理解できるようにする。
- (4) 数量やその関係を式やグラフを用いて表したり考察したりすることができるようにするとともに、目的に応じて依存関係を調べたり分類整理したりすることができるようにする。

[第 4 学年の評価規準]

- [算数への関心・意欲・態度] 知識や技能などの有用さ、及び数量や図形の性質や関係を調べたり、筋道を立てて考えたりすることのよさに気付き、進んで生活に生かそうとしている。
- [数学的な考え方] 算数的活動を通して、数学的な考え方の基礎を身につけ、事象について見通しをもち、筋道を立てて考えることができる。
- [数量や図形についての表現・処理] 整数や小数の計算が確実にでき、それらを用いるとともに、図形の面積を求めたり、図形を作図したり、数量の関係などを表したり、調べたりすることができる。
- [数量や図形についての知識・理解] 数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、小数や分数の意味と表し方、面積の意味、基本的な図形の意味、及び数量の関係の表し方や調べ方がわかる。

A. 数と計算

- (1) 整数が十進位取り記数法によって表されていることについての理解を一層深める。
- (2) 概数について理解し、目的に応じて用いることができるようにする。
- (3) 整数の除法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。
- (4) 小数の意味とその表し方について理解するとともに、小数の加法や減法及び**乗法や除法**の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。
- (5) 分数の意味とその表し方について理解するとともに、同分母の分数の加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。**
- (6) そろばんを用いて、加法及び減法の計算ができるようにする。

単元	目 標	観点別評価規準			
		算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
A. 数と計算		・整数、小数や分数の意味とその表し方、それらの計算に関わる知識や技能の有用さ、及びそれらの性質や関係を調べたり、筋道を立てて考えたりすることの楽しさやよさに気付き、進んで活用しようとしている。	・整数、小数や分数の意味、表現及びそれらの数の計算の意味や計算の仕方に関わる算数的活動を通して、数学的な考え方の基礎を身につけ、事象について見通しをもち、筋道を立てて考えることができる。	・目的に応じて概数を用いることができるとともに、整数の除法の計算が確実にできる。端数部分の大きさなどを小数や分数で表すことや、 小数や分数の加法及び減法、小数の乗法及び除法 の計算をすることができ、それを目的に応じて適切に用いることができる。	・整数、小数や分数に対する感覚を豊かにしている。十進位取り記数法や整数の除法についての理解を深めるとともに、小数や分数の意味と表し方、 小数や分数の加法及び減法、小数の乗法及び除法 の意味がわかる。
大きな数	・億、兆に及ぶ大きな数がわかり、整数の十進位取り記数法をまとめることができる。	①日常の中から大きな数で表されている事象を探そうとしている。 ②十進位取り記数法のよさに気付く。	・千万の位までの数と同じ原理で、兆の位までの数を考えることができる。	・兆の位までの数を読んだり、書いたりすることができる。	①十進位取り記数法の原理や、命数法がわかる。 ②十進数のしくみがわかる。 ③整数は0から9までの数字を組み合わせて表せることがわかる。
	1. 億、兆に及ぶ大きな数のしくみについてまとめることができる。	・億、兆に及ぶ大きな数の位取りに関心をもち、大きな数を調べたり、読んだり、書いたりしようとしている。	・整数を10倍(1/10)、100倍した数の大きさを十進法の考えや位取りの考えを用いて説明できる。	①命数法に従い、兆の位までの数を読んだり、書いたりすることができる。 ②整数を10倍(1/10)、100倍した数を求めることができる。	①整数を10倍、100倍すると、もとの数の位は、それぞれ1けたずつ上がることがわかる。 ②整数を1/10にすると、もとの数の位は、それぞれ1けたずつ下がることがわかる。
	2. 数を表すしくみについてまとめることができる。	・0から9までの数字を組み合わせていろいろな整数をつくろうとしている。	・位が左へ1つ進むごとに何倍になるのかを、位取りの表を見て考えることができる。	・0から9までの数字を組み合わせていろいろな整数をつくることができる。	①位が左へ1つ進むごとに、10倍になるしくみがわかる。 ②数の大きさに対する感覚を豊かにしている。
わり算(1)	・除数が1位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算の仕方を考え、それらの計算が基本的な計算を用いてできることがわかり、その筆算の仕方がわかる。	・除法の筆算がわかり、進んで用いようとしている。	・既習事項を用いて筆算の仕方を考えたり説明したりすることができる。	①(2位数)÷(1位数)、(3位数)÷(1位数)の計算が筆算でできる。 ②除法について、被除数、除数、商及びあまりの関係を調べ、次の式にまとめることができる。 (被除数)=(除数)×(商)+(あまり)	①(2位数)÷(1位数)、(3位数)÷(1位数)の筆算の仕方がわかる。 ②除法について、被除数、除数、商及びあまりの関係を調べる。 (被除数)=(除数)×(商)+(あまり)

わり算 (1)	1. (何十)÷(1 位数)=(何十), (何百)÷(1 位数)=(何百), (何百何十)÷(1 位数)=(何十)の計算ができる。	・簡単な除法の計算を進んで用いようとしている。	・末尾に 0 のある除法に対して, 10 や 100 をもとにして, 簡単な除法として考えることができる。	・(何十)÷(1 位数)=(何十), (何百)÷(1 位数)=(何百), (何百何十)÷(1 位数)=(何十)の計算ができる。	・(何十)÷(1 位数)=(何十), (何百)÷(1 位数)=(何百), (何百何十)÷(1 位数)=(何十)の計算の仕方がわかる。
	2. (2 位数)÷(1 位数)=(2 位数), (3 位数)÷(1 位数)=(3 位数)の計算が筆算でできる。 (3 位数)÷(1 位数)=(3 位数)で, 商に空位がある場合の計算ができる。	・除法の筆算を進んで用いようとしている。	①除法の筆算の仕方を説明することができる。 ②(2 位数)÷(1 位数)と同じ原理で, (3 位数)÷(1 位数)の計算の仕方を考えることができる。 ③商に空位がある場合は, 空位に 0 を書く理由を説明できる。	①(2 位数)÷(1 位数)=(2 位数)の計算が筆算でできる。 ②(3 位数)÷(1 位数)=(3 位数)の計算が筆算でできる。 ③(3 位数)÷(1 位数)=(3 位数)の, 商に空位がある場合の計算ができる。 ④除法について, 被除数, 除数, 商及びあまりの関係を調べ, 次の式にまとめることができる。 (被除数)=(除数)×(商)+(あまり)	①(2 位数)÷(1 位数)=(2 位数)の筆算の仕方がわかる。 ②(3 位数)÷(1 位数)=(3 位数)の筆算の仕方がわかる。 ③(3 位数)÷(1 位数)=(3 位数)の筆算で, 商に空位がある場合に途中式を一部省略する仕方がわかる。 ④除法について, 被除数, 除数, 商及びあまりの関係がわかる。 (被除数)=(除数)×(商)+(あまり)
	3. (3 位数)÷(1 位数)=(2 位数)の計算が筆算でできる。	・除法を正しく筆算で行おうとしている。	・数の相対的な大きさをもとに, 商が立つ位を考慮することができる。	・(3 位数)÷(1 位数)=(2 位数)の計算が筆算でできる。	・(3 位数)÷(1 位数)=(2 位数)の筆算の順序がわかる。
	4. 乗法や除法が 2 段階になっている数量関係を 1 つの式にまとめて表すことができる。	・2 段階の式を 1 つの式で表そうとしている。	・2 段階の式から 3 つの数を用いて, 1 つの式に表して考えることができる。	①2 段階の式を 1 つの式にまとめて書き表すことができる。 ②乗除混合の 3 口の計算ができる。	・乗法や除法が 2 段階になっている数量関係を 1 つの式にまとめて表す仕方がわかる。
	5. 除法を用いて何倍かを求めることができる。 もとになる量を求める場合にも除法が用いられることがわかり, 求め方を説明することができる。	①日常の事象から, 何倍かを求めようとしている。 ②除法を用いて, 進んでもとになる量を求めようとしている。	①もとになる量に対して何倍かを求めるときに除法を用いるわけを, 数直線を用いて考えることができる。 ②もとにする量を, 何倍にあたる数と比べる量から求める場合に, 数直線や除法と乗法の関係を用いて考えることができる。	①除法を用いて何倍かを求めることができる。 ②未知数を□として乗法の式に表すことができる。 ③□で表された未知数を計算で求めることができる。 □×a=b→□=b÷a	①ある数量が, もとになる数量に対して何倍かを求める場合は, 除法を用いることがわかる。 ②□×a=b の□は, 除法を用いて求められることがわかる。
	6. 簡単な(2 位数)÷(1 位数)=(2 位数)の計算をもとに, (何百何十)÷(1 位数)=(何百何十)の計算が暗算でできる。	・除数の暗算を進んで用いようとしている。	・簡単な(2 位数)÷(1 位数)=(2 位数)の計算の仕方をもとに, (何百何十)÷(1 位数)=(何百何十)の暗算の仕方を考えることができる。	・(何百何十)÷(1 位数)=(何百何十)の暗算ができる。	・(何百何十)÷(1 位数)=(何百何十)の暗算の仕方がわかる。
小数 (1)	・小数の意味とその表し方がわかる。 小数の加法及び減法の意味がわかり, それらを用いることができる。	①小数表示のよさに気付き, 日常の中で小数が用いられている事象に興味をもったり, 進んで用いようとしていたりしている。 ②小数の加法及び減法の計算の仕方を進んで考えようとしている。	①小数も整数と同じしくみであることとらえることができ, 整数と小数の関係や大小比較を考慮することができる。 ②0.1 をもとにして小数の加法及び減法の計算の仕方を考えることができる。	①小数を表したり, 読んだりすることができる。 ②小数を数の相対的な大きさで見ることができる。 ③小数の加法及び減法の計算ができる。	①小数の意味や表し方がわかる。 ②小数の加法及び減法の計算の仕方がわかる。
	1. 端数部分の大きさを表すのに小数を用いることや, 小数の表し方及び 1/10 の位がわかる。	①下位単位を用いて表された数量を, 小数を用いて表そうとしている。 ②小数表示のよさに気付き, 進んで用いようとしている。	・十進数の原理を用いて, 端数部分の大きさを 10 等分に表すことを考えることができる。	①小数を用いて端数部分を表すことができる。 ②下位単位で表された数量を, 小数を用いて上位単位で表すことができる。	①端数部分を小数で表す仕方やその読み方がわかる。 ②用語「小数」「小数点」「整数」の意味がわかる。
	2. 小数が整数と同じしくみで表されていることや, 数の相対的な大きさについてわかる。	・0.1 をもとにして小数の加法及び減法の計算の仕方を考えようとしている。	①小数も整数と同じしくみであることとらえることができ, 整数と小数の関係や大小比較を考慮することができる。 ②0.1 をもとにして小数の加法及び減法の計算の仕方を考えることができる。	①数直線上に小数を表したり, 読んだりすることができる。 ②小数を数の相対的な大きさで見ることができる。 ③小数の加法及び減法の計算ができる。	①小数の位取りや, 構成がわかる。 ②用語「小数第一位」の意味がわかる。 ③小数の大小比較の仕方がわかる。 ④小数の加法及び減法の計算の仕方がわかる。
	3. 1/10 の位までの小数の加法及び減法の計算の仕方を考え, それらの計算が筆算でできる。	・小数の加法や減法の筆算を進んで用いようとしている。	・0.1 をもとにした, 位取りに着目したりして, 小数の加法や減法の筆算の仕方を考えることができる。	・小数の加法及び減法が筆算でできる。	①小数の加法及び減法の筆算の仕方がわかる。 ②用語「和」「差」の意味がわかる。

単元	目標	観点別評価規準			
		算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
わり算 (2)	・除数が 2 位数で被除数が 2 位数や 3 位数の場合の計算の仕方を考え、それらの計算が基本的な計算をもとにしてできることがわかり、その筆算の仕方がわかる。	①既習事項を用いて商の立つ位を考え、計算の仕方を考えようとしている。 ②除法の筆算がわかり、進んで用いようとしている。	・既習事項や除法に関して成り立つ性質を調べ、その計算の仕方を考えたり、計算のたしかめを考えたりすることができる。	①(2 位数)÷(2 位数), (3 位数)÷(2 位数)の計算が筆算でできる。 ②除法について、被除数、除数、商及びあまりの関係を調べることができる。	①(2 位数)÷(1 位数), (3 位数)÷(1 位数)の筆算の仕方がわかる。 ②除法について、被除数、除数、商及びあまりの関係がわかる。 (被除数)=(除数)×(商)+(あまり)
	1. (何十)÷(何十)=(1 位数), (何百)÷(何十)=(1 位数), (何百何十)÷(何十)=(1 位数)の計算ができる。	・10 をもとにして除法の仕方を考えようとしている。	・末尾に 0 のある除法に対して、10 や 100 をもとにして、簡単な除法として考えることができる。	①(何十)÷(何十)=(1 位数), (何百)÷(何十)=(1 位数), (何百何十)÷(何十)=(1 位数)の計算が暗算でできる。 ②(何十)÷(何十)=(1 位数), (何百)÷(何十)=(1 位数), (何百何十)÷(何十)=(1 位数)の計算のあまりを求めることができる。	①用語「積」「商」の意味がわかる。 ②除法のあまりの大きさがわかる。
	2. (2 位数)÷(2 位数)=(1 位数), (3 位数)÷(2 位数)=(1 位数)の計算が筆算でできる。	・仮商を立てて計算をしようとしている。	・除数が 2 位数の場合でも、既習事項の原理を用いて計算の仕方を考えることができる。	①(2 位数)÷(2 位数)=(1 位数)の計算が筆算でできる。 ②(3 位数)÷(2 位数)=(1 位数)の計算が筆算でできる。 ③除法について、被除数、除数、商及びあまりの関係を調べることができる。	①商の見当のつけ方や仮商の修正の仕方がわかる。 ②(2 位数)÷(2 位数)=(1 位数)の筆算の仕方がわかる。 ③(3 位数)÷(2 位数)=(1 位数)の筆算の仕方がわかる。 ④除法について、被除数、除数、商及びあまりの関係がわかる。 (被除数)=(除数)×(商)+(あまり)
	3. (3 位数)÷(2 位数)=(2 位数)の計算が筆算でできる。	・既習事項をもとに除数が 2 位数の除法の商が立つ位を考えようとしている。	・既習事項の原理をもとに、(3 位数)÷(2 位数)=(2 位数)の計算の仕方を考えることができる。	・(3 位数)÷(2 位数)=(2 位数)の計算が筆算でできる。	①(3 位数)÷(2 位数)=(2 位数)の筆算の仕方がわかる。 ②商の一の位が 0 になる場合の処理の仕方がわかる。
	4. 除法の決まりを用いて計算をすることができる。	・除数のきまりを進んで用いて計算しようとしている。	①除法の決まりを用いて、工夫して計算する方法を考えることができる。 ②末尾に 0 のある除法に対して、10 や 100 をもとにして、簡単な除法として考えることができる。	①除法のきまりを使って工夫して計算できる。 ②除数、被除数ともに末尾に 0 がある場合の除法を工夫して計算できる。 ③除数、被除数ともに末尾に 0 がある場合の除法のあまりを正しく求めることができる。	①除法について、除数と被除数に同じ数をかける、または除数と被除数を同じ数でわった場合でも、商は変わらないことがわかる。 ②除数、被除数ともに末尾に 0 がある場合の除法を簡単に計算する仕方がわかる。
がい数	・概数について理解し、目的に応じて用いることができる。	・概数のよさに気付き、日常の中で概数が用いられている事象に興味をもったり、進んで用いようとしていたりしている。	・目的に応じて、何けたの概数を用いれば良いのかを適切に判断することができる。	①いろいろな数を四捨五入して、概数で表すことができる。 ②概数を用いて、棒グラフをかくことができる。	・四捨五入の仕方や、概数を用いると便利な場面がわかる。
	1. 概数の意味がわかる。 四捨五入して概数で表すことができる。 四捨五入した整数の範囲がわかる。	①日常の中から概数が用いられている事象を探そうとしている。 ②四捨五入の便利さを知り、進んで用いようとしている。 ③1 つの数に対して、その数はある幅をもった数であると見なそうとしている。	①目的に応じて、何けたの概数を用いれば良いのかを適切に判断することができる。 ②概数の範囲を数直線上でとらえることができる。	①いろいろな数を四捨五入して、概数で表すことができる。 ②四捨五入してある概数になる時の、数の範囲を表すことができる。	①概数を用いると便利な場面がわかる。 ②四捨五入の仕方がわかる。 ③四捨五入してある概数になるもとの数の範囲がわかる。 ④用語「概数」「四捨五入」「以上」「以下」「未満」の意味がわかる。
	2. 概数を用いて、折れ線グラフや棒グラフをかくことができる。	・いろいろな資料をグラフで表す場合、概数を用いるよさがわかる。	・資料、紙面の大きさに応じて適切な概数を判断し、それを折れ線グラフや棒グラフに表すことができる。	・概数を用いて棒グラフをかくことができる。	・棒グラフの最小目盛りから、適切な概数範囲がわかる。
	3. 四則計算の答えを概数で見積もることができる。	・概数のよさに気付き、進んで用いようとしている。	・目的に応じて、四則計算の概算の仕方を考えることができる。	・四則計算の答えを概算で見積もることができる。	・四則計算の答えを概数で見積もる仕方がわかる。

分 数	・分数の意味とその表し方がわかる。	・端数部分を分数で表すよさに気付 き、進んで用いようとしている。	・ある数量を何等分かしてできる大きさに 対して、単位分数のいくつ分であるかを考 えることができる。	・ある数量を何等分かしてできる大きさを、 分数を用いて表すことができる。	①端数部分や、ある数量を何等分かして できた大きさを分数で表す仕方がわか る。 ②分数は単位分数のいくつ分という表し 方であることがわかる。
	1. ある数量を何等分かしてできる大き さを、分数を用いて表すことができる。 単位量を等分して、いくつか集めた 大きさを分数で表すことができ る。	・端数部分を分数で表すよさに気付 き、進んで用いようとしている。	①分数が端数部分の大きさを表す場合 にも用いることができると考えること ができる。 ②ある数量を何等分かしてできる大き さに対して、単位分数のいくつ分であ るかを考えることができる。 ③分数はいろいろな単位で表示でき ることを説明できる。	①ある数量を何等分かしてできる大き さを、分数を用いて表すことができる。 ②単位分数のいくつ分を分数で表し たり、それを読んだりすることができ る。	①分数の表し方や書き方がわかる。 ②用語「分子」「分母」の意味がわか る。
	2. 分数の構成がわかり、1 より大き い数量を分数で表すことができ る。	①端数部分を分数で表すよさに気付 き、進んで用いようとしている。 ②帯分数や仮分数で表すよさに気付 き、進んで用いようとしている。	①ある分数の大きさを、単位分数の大 きさや個数から考えることができる。 ②帯分数や仮分数の構成や表し方を 考えることができる。 ③分数の大小関係を分数のしくみか ら考えることができる。	①数直線上に分数を表したり、数直線 上の分数を読んだりすることができる。 ②帯分数を仮分数に直したり、仮分 数を帯分数に直したりすることができ る。 ③分数の構成をもとに、大小比較を することができる。	①真分数、帯分数、仮分数の意味や 表し方がわかる。 ②帯分数と仮分数の相互変換の仕 方がわかる。 ③分数の大小関係がわかる。 ④1/10 を単位とした分数の大きさ や、小数との対応関係がわかる。
小 数 (2)	・1/1000 の位までの小数の表し方 がわかり、それらを用いた小数の 加法及び減法ができる。	①小数表示のよさに気づき、日常 の中で小数が用いられている事象に 興味をもったり、進んで用いよう としていたりしている。 ②既習事項をもとにして、1/1000 の位までの小数の加法及び減法の 計算の仕方を進んで考えようとし ている。	①小数も整数と同じくみであること がで、既習事項をもとに 1/1000 の位までの小数の表し方を考える ことができる。 ②位取りに着目して、1/1000 の 位までの小数の加法や減法の筆算 の仕方を考えることができる。	①1/1000 の位までの小数を表したり、 読んだりすることができる。 ②1/1000 の位までの小数の加法及 び減法の計算ができる。	①1/1000 の位までの小数の意味や 表し方がわかる。 ②1/1000 の位までの小数の加法 及び減法の計算の仕方がわかる。
	1. 小数を十進法の書き表し方で 表すことができる。	・小数の表し方のよさに気づき、 進んで用いようとしている。	・0.1 より小さい端数部分を表す 小数の表し方を、十進位取り記数 法にしたがって考えることができ る。	・1/1000 の位までの小数を読んだり、 表したりすることができる。	①小数の位取りや、構成がわかる。 ②用語「小数第二位」、「小数第 三位」の意味がわかる。
	2. 1/1000 の位までの小数の加法 及び減法の計算の仕方を考え、そ れらの計算が筆算でできる。	・小数の加法や減法の筆算を進 んで用いようとしている。	・位取りに着目して、1/1000 の 位までの小数の加法や減法の筆算 の仕方を考えることができる。	・1/1000 の位までの小数の加法 及び減法が筆算でできる。	・1/1000 の位までの小数の加法 及び減法の筆算の仕方がわかる。
小 数 の か け 算 と わ り 算	・小数の乗法、除法(乗数、除数 が整数の場合)の意味がわかり、 それらを用いることができる。	・(小数)×(整数)、(小数)÷(整 数)の計算の仕方を進んで考えよ うとしている。	・(小数)×(整数)、(小数)÷(整 数)の計算を、既習事項(整数の乗 除法)と同じ原理で考えること ができる。	・(小数)×(整数)、(小数)÷(整 数)の計算ができる。	・(小数)×(整数)、(小数)÷(整 数)の計算の仕方がわかる。
	1. (小数)×(整数)の計算が できる。	・既習事項を用いて(小数)×(整 数)の計算の仕方を考えようとし ている。	①(小数)×(整数)の計算を、0.1 をもとにして既習事項(整数の乗 法)と同じ原理で考えること ができる。 ②(小数)×(整数)の筆算の仕 方を、既習事項(整数の乗法)を 用いて考えたり、説明したりす ることができる。	①(被乗数が 1/10 の位までの純 小数)×(整数)の計算ができる。 ②(小数)×(1 位数)=(小数・ 整数)の計算が筆算でできる。 ③(小数)×(2 位数)=(小数・ 整数)の計算が筆算でできる。	①(被乗数が 1/10 の位までの純 小数)×(整数)の計算の仕方が わかる。 ②(小数)×(1 位数)=(小数・ 整数)の筆算の仕方がわかる。 ③(小数)×(2 位数)=(小数・ 整数)の筆算の仕方がわかる。

単元	目 標	観点別評価規準			
		算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
小数のかけ算とわり算	2. (小数)÷(整数)の計算ができる。	・既習事項を用いて(小数)÷(整数)の計算の仕方を考えようとしている。	①(小数)÷(整数)の計算を, 0.1 をもとにして既習事項(整数の除法)と同じ原理で考えることができる。 ②(小数)÷(整数)の筆算の仕方を, 既習事項(整数の除法)を用いて考えたり, 説明したりすることができる。 ③(小数)÷(整数)の計算であまりが出る場合, そのあまりが単位小数のいくつ分であるかを考えることができる。 ④(整数・小数)÷(整数)の計算で, 整数を 0.1 をもとにすればわり進めることを見つけることができる。	①(小数)÷(整数)の計算ができる。 ②(小数)÷(1 位数)=(小数)の計算が筆算でできる。 ③(小数)÷(2 位数)=(小数)の計算が筆算でできる。 ④あまりが出る(小数)÷(整数)の計算ができる。 ⑤(整数・小数)÷(整数)のわり進みの計算が筆算でできる。 ⑥(小数)÷(整数)の商を一の位までの概数で求めることができる。	①(小数)÷(整数)の計算の仕方がわかる。 ②(小数)÷(1 位数)=(小数)の筆算の仕方がわかる。 ③(小数)÷(2 位数)=(小数)の筆算の仕方がわかる。 ④あまりが出る(小数)÷(整数)の計算の仕方やあまりの求め方がわかる。 ⑤(整数・小数)÷(整数)のわり進みの筆算の仕方がわかる。 ⑥(小数)÷(整数)の商を一の位までの概数で求める仕方がわかる。
	3. 小数倍を用いることができる。	・既習事項(整数倍)をもとにして小数倍の仕方を考えようとしている。	・小数倍の計算を, 図などを用いて, 既習事項(整数倍)と同じ原理で考えることができる。	・図などを用いて小数倍の意味を表現できる。	①小数倍の意味がわかる。 ②既習事項(整数倍)と同じように, (比較量)÷(基準量)で小数倍が求められるしくみがわかる。
そろばん	・そろばんを使った数の表し方がわかり, 加法及び減法の計算ができる。	・日常の中で, 進んでそろばんを使うおうとしている。	・そろばんを使った計算の仕方を考えることができる。	①そろばんを使って, 大きい数を表すことができる。 ②そろばんを用いて, 加法及び減法の計算ができる。	・そろばんによる大きい数や小数の表し方がわかる。
分数のたし算とひき算	・分数の相等関係ならびに同分母の分数の加法及び減法の意味がわかり, それらを用いることができる。	・分数の加法及び減法の計算の仕方を進んで考えようとしている。	・分子が1の分数をもとにして, 分数の加法及び減法の計算を, 単位分数のいくつ分として考えることができる。	①分数の相等関係を, 数直線などを用いて図に表すことができる。 ②同分母分数の加法及び減法ができる。	①分数の相等関係がわかる。 ②同分母分数の加法及び減法の計算の仕方がわかる。
	1. 数直線などを用いて, 分数の相等関係を見つめることができる。	・数直線などを用いて, 大きさの等しい分数を進んで探そうとする。	・数直線などを用いて, 大きさの等しい分数を見つめることができる。	・分数の大きさを図や数直線を用いて表現することができる。	①大きさの等しい分数があることがわかる。 ②分子が同じ分数の大きさを比較するには, 分母の大きさに着目すればよいことがわかる。
	2. 同分母分数の加法及び減法の計算ができる。	・分数の加法及び減法の計算の仕方を進んで考えようとしている。	①分子が1の分数をもとにして, 同分母の真分数どうしの加法及び減法の計算を, 単位分数のいくつ分として考えることができる。 ②同分母の真分数どうしの加法及び減法をもとにして, 同分母の仮分数の加法及び減法を考慮することができる。 ③同分母分数の加法及び減法の計算を, 既習事項(整数の加法及び減法)と同じ原理で考えることができる。 ④既習事項をもとにして, 同分母の帯分数どうしの加法及び減法の計算の仕方を考えることができる。	①同分母分数の加法の計算をすることができる。 ②同分母分数の減法の計算をすることができる。	①同分母分数の加法の計算の仕方がわかる。 ②同分母分数の減法の計算の仕方がわかる。

B. 量と測定

(1)面積の意味について理解し、簡単な場合について、面積を求めることができるようにする。

(2)角の大きさについて理解し、それを測定することができるようにする。

単元	目標	観点別評価規準			
		算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
B. 量と測定		・面積や角の大きさに関わる知識や技能の有用さ、及びそれらの性質や関係を調べたり、筋道を立てて考えたりすることの楽しさやよさに気づき、進んで活用しようとしている。	・面積や角の大きさを調べたり表したりする算数的活動を通して、数学的な考え方の基礎を身につけ、事象について見通しをもち、筋道を立てて考えることができる。	・正方形及び長方形の面積を求めたり、角の大きさを測定したりすることができる。	・面積や角の大きさに対する感覚を豊かにしている。面積の意味、面積の単位と測定、面積の求め方がわかる。角の大きさの単位と測定、角の大きさの求め方がわかる。
角	・角の大きさを半直線の回転としてとらえ、その単位と測定の仕方及び作図の仕方がわかる。 角の大きさの単位(度 $^{\circ}$)について理解し、それらを用いることができる。	①身のまわりにある図形の角を進んで調べようとしている。 ②角の大きさを測定するとき、分度器を工夫して用いようとしている。 ③三角定規を組み合わせていろいろな角の大きさを作ろうとしている。	①他の数量と同じように、角の大きさを数量としてとらえることができる。 ②180 $^{\circ}$ より大きい角の大きさを測定する場合に、測定の仕方を工夫することができる。	①分度器を使って角の大きさを測定することができる。 ②分度器を使って角を作図することができる。	①角の大きさの単位がわかる。 ②分度器のしくみや直角の意味がわかる。 ③分度器を使った角度の測定の仕方がわかる。 ④三角定規のそれぞれの角の大きさを知る。
面積	・面積の意味について理解し、それを簡単な図形に対して用いることができる。	・身のまわりにある図形の広さ比べを通して面積のよさに気づき、それを用いようとしたり、既習事項をもとに面積の公式を考えようとしたりしている。	①他の数量と同じように、広さを数量としてとらえることができる。 ②既習事項をもとに、簡単な図形の面積の求め方を考えることができる。	・面積の公式を用いて、簡単な図形の面積を求めることができる。	①広さ比べを通して面積の意味や単位がわかる。 ②長方形及び正方形の面積の公式がわかる。
	1. 面積の意味や単位がわかる	・広さ比べの仕方をいろいろ工夫しようとしている。	・他の数量と同じように、広さを数量としてとらえることができる。	・ある図形の面積を、単位面積(1 cm 2)のいくつ分ととらえて表すことができる。	①広さの比べ方がわかる。 ②広さ比べを通して、面積の意味や単位がわかる。
	2. 長方形や正方形及び複合図形の面積を求めることができる。	①既習事項をもとに面積の公式を考えようとしている。 ②面積の公式を利用して、面積を求めようとしている。 ③複合図形の面積を、工夫して求めようとしている。	①長方形及び正方形の辺に着目して、面積の求め方を考えることができる。 ②複合図形の面積の求め方を、長方形の面積の求め方をもとに考えることができる。	①面積の公式を用いて、長方形及び正方形の面積を求めたり、辺の長さを求めたりすることができる。 ②複合図形の面積を求めることができる。	①長方形及び正方形の面積は、単位面積(1 cm 2)のいくつ分という表し方がわかる。 ②面積の公式の意味がわかる。 ③複合図形の面積の求め方がわかる。
	3. 大きな面積に対して、適切な単位を用いることができる。	・日常の中から大きな面積を探し、適切な単位で表そうとしている。	・1 cm 2 , 1 m 2 , 1 km 2 , 1a, 1haの相互関係を、1辺の長さに着目して考えることができる。	・大きな図形の面積に対して、1 cm 2 , 1 m 2 , 1 km 2 , 1a, 1haを適切に用いることができる。	①1 cm 2 , 1 m 2 , 1 km 2 , 1a, 1haの相互関係がわかる。 ②大きな単位で表される面積に対して、感覚を豊かにしている。

C. 図形

- (1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、基本的な図形についての理解を深める。
 (2) 図形についての観察や構成などの活動を通して、立体図形について理解できるようにする。

単元	目 標	観点別評価規準			
		算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
C. 図形		・基本的な平面図形・立体図形に関わる知識や技能の有用さ、及びそれらの性質や関係を調べたり、筋道を立てて考えたりすることの楽しさやよさに気付き、進んで活用しようとしている。	・基本的な平面図形・立体図形を観察したり、構成したりするなどの活動を通して、数学的な考え方の基礎を身に付け、事象について見通しをもち、筋道を立てて考えることができる。	・基本的な平面図形・立体図形を作図したり、作ったりすることができる。	・基本的な平面図形・立体図形についての感覚を豊かにするとともに、それらの図形の意味や性質がわかる。
垂直・平行と四角形	・図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し、垂直や平行及び平行四辺形やひし形、台形の特徴や性質について知り、それらを作図することができる。	①四角形の特徴を見つけ、分類しようとしている。 ②身のまわりのものから垂直、平行、平行四辺形、ひし形、台形のものを探そうとしている。	・四角形を分類するとき、構成要素や辺の位置関係、対角線などに着目して考えることができる。	・垂直、平行、平行四辺形、台形、ひし形の弁別をしたり作図したりすることができる。	①垂直、平行、平行四辺形、台形、ひし形の特徴や性質がわかる。 ②垂直、平行、平行四辺形、台形、ひし形の作図の仕方がわかる。
	1. 垂直の特徴や性質がわかる。	・身のまわりのものから垂直なものを探そうとしている。	①垂直を2直線の関係としてとらえ、性質を考えることができる。 ②垂直な直線の作図の仕方を考えることができる。	①垂直を弁別することができる。 ②垂直な直線を作図することができる。	①垂直の特徴や性質がわかる。 ②垂直な直線の作図の仕方がわかる。
	2. 平行の特徴や性質がわかる。	・身のまわりのものから平行なものを探そうとしている。	①平行を2直線の関係としてとらえ、性質を考えることができる。 ②平行な2直線の作図の仕方を考えることができる。	①平行を弁別することができる。 ②平行な2直線を作図することができる。	①平行の特徴や性質がわかる。 ②平行な2直線の作図の仕方がわかる。 ③平行な直線と、それに交わる他の直線からなる角の角度との関係がわかる。
	3. 平行四辺形、台形、ひし形の特徴や性質がわかる。 それぞれの四角形の対角線の性質がわかる。	①四角形の特徴を見つけ、分類しようとしている。 ②身のまわりのものから、平行四辺形、台形、ひし形のものを探そうとしている。	①辺の長さや位置関係、角の大きさなどに着目して、平行四辺形、台形、ひし形の特徴や性質を考えることができる。 ②対角線の特徴に着目して、平行四辺形、台形、ひし形の違いを考えることができる。 ③いろいろな四角形の相互関係について考えることができる。	①平行四辺形、台形、ひし形の弁別ができる。②平行四辺形、台形、ひし形を作図することができる。 ③対角線の性質を用いて、四角形を作図することができる。	①平行四辺形、台形、ひし形の特徴や性質がわかる。 ②平行四辺形、台形、ひし形の作図の仕方がわかる。 ③対角線の意味や対角線を用いた四角形の作図の仕方がわかる。
直方体と立方体	・図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し、直方体及び立方体の特徴や性質について知り、それらの見取図や展開図を作図することができる。	①立体に興味をもち、既習事項をもとに直方体や立方体の構成要素を調べようとしている。 ②身のまわりの立体の中から、直方体及び立方体のもので探そうとしている。	①立体を分類するとき、辺の長さや面の大きさ、形や位置関係などに着目して考えることができる。 ②見取図や展開図を通して、直方体や立方体の構成要素の相互関係をとらえることができる。	①直方体及び立方体の見取図や展開図を作図することができる。 ②直方体の中で、辺や面の垂直・平行関係を判断することができる。	①直方体及び立方体の特徴や性質がわかる。 ②直方体及び立方体の見取図や展開図の作図の仕方がわかる。 ③直方体の辺や面の垂直・平行関係がわかる。
	1. 直方体や立方体の特徴や性質がわかり、見取図や展開図を作図することができる。	①立体に興味をもち、既習事項をもとに直方体や立方体の構成要素を調べようとしている。 ②身のまわりの立体の中から、直方体及び立方体のもので探そうとしている。	①立体を分類するとき、辺の長さや面の大きさ、形や位置関係などに着目して考えることができる。 ②見取図や展開図を通して、直方体や立方体の構成要素の相互関係をとらえることができる。	①直方体及び立方体を弁別することができる。 ②直方体及び立方体を見取図を作図することができる。 ③直方体及び立方体の展開図を作図することができる。	①直方体及び立方体の特徴や性質がわかる。 ②直方体及び立方体を見取図の作図の仕方がわかる。 ③直方体及び立方体の展開図の作図の仕方がわかる。
	2. 直方体の辺や面の垂直・平行関係がわかる。	①既習事項の構成要素、垂直や平行などに着目して直方体を観察しようとしている。 ②身のまわりのものから、垂直な辺と面、垂直な面と面、平行な面と面などを探そうとしている。	・構成要素に着目し、直方体の辺や面の垂直・平行関係を考えることができる。	①直方体の辺と辺の垂直・平行関係を判断できる。 ②直方体の辺と面の垂直・平行関係を判断できる。 ③直方体の面と面の垂直、平行関係を判断できる。	①直方体の辺と辺の垂直・平行関係がわかる。 ②直方体の辺と面の垂直・平行関係がわかる。 ③直方体の面と面の垂直、平行関係がわかる。

D. 数量関係

- (1) 伴って変わる二つの数量について、それらの関係を表したり、調べたりすることができるようにする。
 (2) 数量の関係を式で簡潔に表したり、それを讀んだりすることができるようにする。
 (3) 四則に関して成り立つ性質についての理解を深める。
 (4) 目的に応じて資料を集め、分類整理したり、特徴を調べたりすることができるようにする。

単元	目標	観点別評価規準			
		算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
D. 数量関係		・数量の関係の表し方、四則、資料の分類整理に関わる知識や技能の有用さ、及びそれらの性質や関係を調べたり、筋道を立てて考えたりすることの楽しさやよさに気付き、進んで活用しようとしている。	・数量の関係をグラフや式に表したり、四則に関して成り立つ性質についてまとめたり、資料を分類整理したりする算数的活動を通して、数学的な考え方の基礎を身につけ、事象について見通しをもち、筋道を立てて考えることができる。	・数量の関係をグラフや式に表したり、四則に関して成り立つ性質についてまとめたり、資料を分類整理したりすることができ、それらを目的に応じて適切に用いることができる。	・折れ線グラフの表し方や読み方、四則の混合した式の表し方、四則に関して成り立つ性質、目的に応じた資料の収集と分類整理の仕方がそれぞれわかる。
折れ線グラフ	・折れ線グラフから変化の特徴を読み取ったり、変化の様子を折れ線グラフで表したりすることができる。	・折れ線グラフで表すことよき気付き、日常の事象の変化を進んで折れ線グラフに表そうとしている。	①目的や紙面の大きさに応じて、適切な目盛りやグラフの大きさを考え、折れ線グラフの傾き具合の変化から、事象の変化をとらえることができる。 ②折れ線グラフから、測定していない値を推測することができる。	①折れ線グラフの特徴や傾向を読み取ることができる。 ②折れ線グラフをかくことができる。	①折れ線グラフの特徴や傾向の読み取り方がわかる。 ②折れ線グラフの傾きと事象の変化との相関関係がわかる。 ③折れ線グラフのかき方がわかる。
29 資料の整理	・資料を分類整理し、そこから特徴や傾向を読み取ることができる。	・資料を二次元表に表すことよき気付き、日常の事象を進んで二次元表に表そうとしている。	・目的に応じて工夫して、資料を見やすく分類整理する仕方を考えることができる。	①二次元表から特徴や傾向を読み取ることができる。 ②目的に応じて資料を分類整理し、落ちや重なりのない二次元表をつくることができる。	①二次元表の特徴や傾向の読み取り方がわかる。 ②二次元表のかき方がわかる。
計算のきまり	・四則混合の式や()を用いた式を正しく計算することができる。 四則に関して成り立つ性質を理解し、それらを用いることができる。	①2段階の式に対して、()を用いて1つの式にまとめるよき気付き、進んで用いようとしている。 ②日常の中で計算の決まりを進んで用いて計算しようとしている。	①四則混合計算の順序や、()を用いた式の計算の仕方を考えることができる。 ②2段階の式に対して()を用いて1つの式にまとめよう考えることができる。 ③四則に関して成り立つ性質に対して、□や○、△などを用いて一般的にとらえることができる。 ④四則に関して成り立つ性質が、小数についても成り立つことをとらえることができる。	①2段階の式を、()を用いて1つの式に表し、計算をすることができる。 ②四則混合式や()を用いた式の計算をすることができる。 ③分配法則、交換法則、結合法則を用いて計算をすることができる。	①四則混合式の計算の順序がわかる。 ②()を用いた式のまとめ方や、()を用いた式の計算の仕方がわかる。 ③分配法則、交換法則、結合法則の意味がわかる。 ④四則の間で成り立つ関係がわかる。
変わり方	・伴って変わる2つの数量関係を、表や式に表し、その関係性を調べることができる。	・伴って変わる2つの数量に対して興味をもち、表や式を用いて、2つの数量の関係性を調べようとしている。	・伴って変わる2つの数量関係を表や式を用いて調べ、2つの数量の関係性を見つけることができる。	①伴って変わる2つの数量関係を表にまとめたり、□や○などを用いて式に表したりすることができる。 ②伴って変わる2つの数量関係をもとに、一方の数量からもう一方の数量を求めることができる。	①伴って変わる2つの数量関係の表のまとめ方がわかる。 ②伴って変わる2つの数量関係で、□や○などを用いた式の表し方がわかる。 ③伴って変わる2つの数量関係性を活用する仕方がわかる。